

# この美しい森の 未来を想い、時を紡ぐ。

“昆虫が集まるホテル”を通して  
植生が豊かな森を作る。  
「グランドセイコー」の  
生産拠点である岩手・雫石で、  
セイコーが今、生物多様性の  
保全活動に力を入れている。  
手付かずだった森を整備し、  
その森を通して次代を担う  
子どもたちに自然を守る意義を  
伝えていく、その取り組みを追った。

## 子どもたちと作る“持続可能な森”

ホテルは隈研吾建築都市設計事務所の設計で、  
子どもたち自らが釘打ちした木箱なども材料に。  
楽しみながら環境保全を自分ごと化してほしい  
という願いをこめた



**北**に名峰・岩手山を望む、雫石。群生するヤマボウシやコナラが赤や黄色のグラデーションで辺りを彩っている。落ち葉を踏みしめながら歩いてきた子どもたちが、先ほど拾ったばかりの松ぼっくりや小枝を、木やスチールで組んだ枠の中にそっと差し入れる。「小さい部屋は虫のおうち」「ここは枯葉をたくさん入れて、リスが住める大きな部屋にしよう」。そんな会話を繰り返しながら。

まるで小さな巣箱をいくつも重ねたようなこの装置は、「インセクトホテル」と呼ばれている。その名の通り、虫のためのホテルだ。欧州発祥の取り組みで、現地では公園や民家の庭先などで見かけることも多い。虫のすみかを用意することで、その虫に釣られて動物が集まるようになり、周囲の植生も豊かになるという。

岩手県の伝統工芸品である南部鉄器の工房も点在し、伝統と自然が調和するこの雫石はセイコーのウオッチ生産拠点でもある。セイコーの象徴ともいえる「グランドセイコー」はここで生み出されているのだ。ものづくりを支えてくれるこの地の自然を守るため、同グループは生物多様性保全活動にも力を入れている。

約10年前には工場敷地内に長年手付かずで残されていた森に着目。1000本近い樹木を全てナンバリングして管理し、さらに木を間引いたり下草を意図的に刈り残したりすることで、小動物や昆虫が暮らしやすい環境を整えてきた。新緑や紅葉など季節ごとにさまざまな表情を見せるこの森に、今ではキツネやウサギ、リスなども頻りに姿を見せるようになった。



## インセクトホテル

一般的には忌避しがちな害虫も益虫と区別せずに呼び寄せることで、生態系が豊かになるという。繰り返し使えるよう、枠組みにはスチールを用いた



## グランドセイコースタジオ 雫石

建築家の隈研吾氏が設計を手がけ、2020年に開業した「グランドセイコースタジオ 雫石」。建物の中からも周辺の自然が感じられる木造建築で、周囲の緑とも見事に調和している

恵まれた環境を地域のために残していくこと。さらに、未来を作る子どもたちにも生物多様性の素晴らしさに触れる機会をつくり、楽しみながら学んでもらうことが企業としての社会貢献になる。セイコーはそう考えている。子どもたちと一緒に作り上げるインセクトホテルも、この活動の一環だ。

先人から受け継いだものを、手をかけながらさらに未来につなげていく。この姿勢はそのままセイコーの理念とも重なる。2020年に開業した機械式時計の専門工房「グランドセイコースタジオ 雫石」は、

マイスターと呼ばれる技術者が後継者を指名し、日本の技術力やものづくりの精神を受け継いでいく人材育成の場でもある。

確かな品質を届け続けるために、技も心も、環境も次世代に受け渡したい。社会のために、未来のために、セイコーは今日も歩み続ける。AD



セイコーわくわく環境教室

■お問い合わせ  
セイコーホールディングス株式会社